

2021年度ひなまつり会 勉強会研究発表

「パーソナルカラー診断に使われている色名調査」

きっかけ

パーソナルカラー診断時における疑問

「パーソナルカラー診断で似合う色の色名を覚えてもらっても、その色名が他のサロンで使われていないのではないか」

「同じような色でもドレープによって色名が違うのではないか」

「様々なサイトで4シーズン別の色名を見る事ができる現在、色名でお客様が混乱する事はないのだろうか」

「診断している側は色名の氾濫を解っているのだろうか」

などから、一昨年、様々なパーソナルカラーに関する書籍に掲載されている色名についての調査を行い、日本にパーソナルカラーが入ってきた当初のカラーミューティフルの色名と比較を行いました。

その結果、使われている色名が随分変わってきている事が解りました。そこで基準となる色名があった方がお客様にとっても、カラーリストにとっても良いのではないかと言う事で引き続き調査する事になりました。



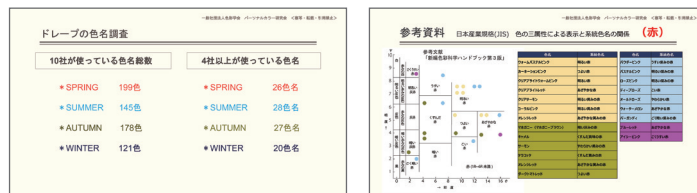
どうせ基準を作るなら、診断時にお客様と共有できるよう、ドレープの色名を調査をした方がよいという事で、10社のドレープの色名を集計。

その結果、各シーズン150色名前後の色名が存在しました。

それらを系統色名に落とし込み、色相・明度彩度に関する修飾語の観点から集計を取り、現在のパーソナルカラードレープに使われている色名を調査研究しました。

どんな色名が使われているのか、どんな色名が多く使われているのか、シーズンによって何か違いはあるのかなど、様々な気づきがありました。

調査方法



ひなまつり会後のアンケートでは、

「色名がこんなにわかれているとは知らなかった」

「色名が同じでもドレープの色が違う事もある。色を実際に見るべきではないか」

「基準は必要だと思った。」等様々なご意見を頂きました。

2022年度勉強会では、この調査結果及びアンケートを踏まえ、基準としてふさわしい色名を絞っていきたいと考えております。

今後

「パーソナルカラー診断に関わる色素のデータ収集」

現役のカラリストがパーソナルカラー診断結果と合わせた色素調査を実施し、現代の日本人女性の色素傾向を探るという発表を行いました。

調査目標

- ブルーベースとイエローベースの割合
- どのシーズンが多いのか、4シーズンの割合
- さらに各シーズンの色素の色域の傾向を色の三属性に落とし込み

※今回はコロナ禍もあり目標に達せず、2022年1月時点でのデータ数で考察を行なうこととした。

調査対象

- 対象者：日本人女性
- 対象年齢：問わない
- 出身地：問わない

調査手順

- 1 パーソナルカラー診断
- 2 写真撮影……眉間・頬・虹彩に髪等が被らないように撮影
- 3 色素分析
- 4 色素データ収集表に入力……マンセル値、RGB値、モデルさんの年代、出身地(育った土地、都道府県別)

調査結果

※一部抜粋



今後

データを更に収集し、各シーズンの色素の色域を明確にすることでパーソナルカラリストが活用できるデータを作っていければと考えている。